

山梨県甲府盆地北部に分布する後期新生代火成岩類の古地磁気：予察結果

Paleomagnetism of late Cenozoic igneous rocks in the northern Kofu basin, Yamanashi Prefecture, central Japan: Preliminary results

中村 宣仁[1], 星 博幸[2]

Norihito Nakamura[1], Hiroyuki Hoshi[2]

[1] 愛知教育大学・院・地学, [2] 愛知教育大・地学

[1] Graduate School of Educ., Aichi Univ. Educ., [2] Dept. Earth Sci., Aichi Univ. Educ.

<http://133.96.162.69/~hoshi/>

中部日本における地質帯状構造の屈曲（関東対曲構造）の形成プロセスを明らかにする目的で、筆者らは、屈曲東翼側の甲府盆地北部に分布する火成岩類の古地磁気を調査している。

調査地には、中期中新世 - 更新世の火成岩類が広く分布している。調査対象としている火成岩類は、下位から甲府花崗岩体、川浦複合岩体、小檜山火山岩中の大平溶結凝灰岩、小烏花崗閃緑岩、水ヶ森火山岩中のブロックアンドアッシュフロー、および片山溶岩である。

18 地点から残留磁化測定用の試料を採取した。全測定試料について段階交流消磁または段階熱消磁を行っており、現在測定中である。加えて、残留磁化を担っている強磁性鉱物を推定するために岩石磁気実験も行っている。

本講演では、測定データを提示し、現段階で考えられる屈曲構造東翼の形成プロセスについて議論する。